WaterRing's Dojinshi Vol. 33

2025 AUTMN SEASON
Midsummer Night
WATERRING ARTWOK

Belle

視線がガラス越しに鈴の体に注がれると、白いTシャツの下の水着は完璧に姿を消していた.透き通るように白い胸が太陽の光を浴びてほんのり赤みを帯び、あなたの目の前で自然に垂れ下がっている.乳首の形もはっきりと浮かび上がり、あなたは股間がゆっくりと膨張していくのを感じた.

?

え？何見てるの？

リンは自分の体があなたにすっかり見られてしまったことに気づかず、いぶかしげにあなたを見ている.

じわっ

じわっ

ぎゅむぎゅむ

お兄ちゃんの顔、なんだか変だよ.もしかして熱中症？

彼女がそっとあなたの額に近づき、視線を下に向けた瞬間、あなたのズボンがとっくに盛り上がっていることに気づいた.白く滑らかな頬は一瞬で真っ赤になり、耳まで熱くなった.

あなたの両手は鈴の肩にかかり、水着とTシャツをそのまま一緒に脱がせた.布地にわずかに隠されていた柔らかい乳房がぽろりと弾け、午後の空気の中に裸で晒される.乳首の赤みが、何の隠し立てもなくあなたの目の前に現れた.

お…お兄ちゃんったら…こんな場所でまで……

リンはそう言いながら視線をそらし、赤くなった頬は少し熱を帯びている

でも……ここには誰もいないし……だ、ダメってわけじゃ、ないけど……

ぷるっ

カァッ♡

ブル

ブル

たゆん♡

彼女はそっと下唇を噛み、語尾はどんどん小さくなっていく.視線はさまよい、つま先でそっと砂に円を描いている.鈴はあなたの服の裾を掴み、もじもじとあなたを見つめ、太ももを無意識にきつく締める.あなたはその神秘的な股間に手を伸ばした.

ちゅっ

リンがそっと水着を引き下げると、布地が解放された瞬間、あなたの勃起も一緒にウエストから飛び出し、彼女の目の前で高くそそり立った.鈴は目を大きく見開いて、すでに脈打ち膨張しているあなたの性器を見つめ、顔の赤みは瞬く間に耳元から鎖骨まで広がった.

ぷるぷる

アキラの...なんだか...また大きくなったみたい...いっぱい出してね.....

リンの温かい唇がそっとあなたの亀頭を包み込み、柔らかくしなやかな舌が何度も舐め回し、時折あなたの先端を刺激する

アキラがどれだけ大きくなっても...リンは...鈴は頑張って飲み込むから...

こんなお兄ちゃんは好き？

あぁ

じゅぼ

じゅぼ

たらっ

とろっ

あなたのペニスをしゃぶりながら、リンは自分の秘部に手を伸ばし、指で既に膨らんだクリトリスをこすり、濡れて滑らかなひだの間をかき回し続け、元々潤っていた蜜の穴をさらに溢れさせ、あなたが挿入してくるための最高の準備を整えた.

あなたはリンの臀部を両手でしっかりと掴み,彼女の体を少し持ち上げてから,そのまま下に押し付けた.亀頭は一瞬で彼女の肉弁をこじ開け,体重と共にその柔らかい子宮頸にまっすぐ突き当たった.鈴は低く喘ぎ,全身が瞬時にこわばり,あなたを掴む爪が肌に食い込んだ.

お兄ちゃんがぁ

どちゅ

どちゅ

あっ...!ま,待って...アキラ...入ったばかりなのに...すぐ...イっちゃう...

リンの体は制御不能に震え,あなたの進入と共に,蜜液が結合部から絶え間なく噴き出した

ぷる

あぁ

ぷる

お

アキラの...おっきい.....子宮を突かれてる感じがする.....

パンパンパンパン

すちゅ

すちゅ

彼女の腰は反射的に震え,声には快感が混じり,まるであなたの全てを体内に収めたいかのように,膝をさらにきつく閉じた.

あなたはリンの腰を強く抱きしめ、腕に力を込めて、リズムを速め始めた.彼女の蜜壺はあなたの肉棒にぴったりと吸い付き、抽挿のたびに「ぷちゅっ...!ぷちゅっ...!」という淫らな水音を立てる.亀頭は休むことのない永久機関のように彼女の子宮口を突き、間近に迫った爆発を予感させている.

ビクビク

こんなリンが……アキラは一番好きなんでしょ?抜いちゃだめ……リンの中に...ちゃんと...いっぱい

今日も

いっぱい出された

ピクッ

ピクッ

あぁ…アキラのでてきた

ぜ、全部……入ってきた……！

じゅぷっ

ぶぴゅっ

どろぉ～♡

リンは目を閉じ、あなたがもたらした快感をじっくりと味わい、小穴はあなたを固く吸い付いて 離さない

空になった肉棒をリンの体から引き抜くと、「ぽちゅっ」という音と共に、蜜穴に収まりきらなかった精液が鈴の愛液と混じり合って床に滴り落ちた.

あ、

じゅぷっ

ぱちゅっ

たくさん出たね♡お兄ちゃんの

もじもじ

...えっ??もう...今日はどうしてこんなにたくさん出したの...

リンは呆れたような顔であなたを見ているが、その目には喜びの色が浮かんでいる

今日が安全日でよかった...じゃなかったら、赤ちゃんができちゃうところだった...

ピクッ

ピクッ

ピクッ

お兄ちゃんの

とろっ

とろっ

木漏れ日が差し込む中、リンの眼差しは虚ろで幸せに満ちている.目の前にいるのは、あなたの匂いに染まった一人の少女.彼女の心も体も、完全にあなたの形になってしまった.そのことに気づくと、萎えかけていたペニスが再び静かに硬く勃ち上がった...

浮汝柚葉×愛麗絲

Yuzuha × Alice

ゆずは × アリス

リンと「親密な」交流を終えたばかりのあなたが、リゾートでの休暇を満喫しようとリラックスしていたその時、背後からそっと呼びかける声が聞こえた...

さっきの、ぜーんぶ見ちゃった...くすくす...まさか自分の妹に手を出すなんて～

あなたが勢いよく振り返ると、そこには柚葉がいたずらっぽくこちらを見ており

エッチですね、うふふ～

ドキドキ

ドキドキ

すけすけ

でも...さっきの二人のあの感じ...本当にすごかったね...

柚葉の声は次第に甘くなり、頬は微かに赤らんでいた.普段のあっけらかんとした様子とは違い、少し戸惑っているようだった.